

放射線科 専門研修プログラム

目指せー“Doctor's doctor”
必要とされる優れた放射線科医へ！

募集定員
5名

研修期間
3年



責任者からのメッセージ



放射線科
教授 東 美菜子

放射線医学は、放射線診断(画像診断、核医学、IVR：Interventional Radiology)と放射線治療からなります。近年、高精度で安全な検査・治療を可能にする技術の開発が著しく、人工知能(AI)の研究もさかんで、高度な技術の臨床応用が進んでいます。放射線科では、様々な技術を駆使して、各診療科のニーズに応じ、あらゆる年齢・臓器を対象とした適切な放射線診療を提供することに日々励んでおります。我々宮崎大学放射線科は、宮崎の放射線診療の充実を目的とした人材育成に力を入れ、チーム医療の一員としての心構えや各診療科医師とのコミュニケーションスキル、放射線診療の知識と技術を習得できるような充実した研修プログラムを作成し、熱心に教育を行っています。さらに、最先端の画像技術やAIを用いた研究を行っており、リサーチマインドの育成にも取り組んでおります。みなさんと一緒にお仕事ができる日を医局員一同大変楽しみにしております。

プログラムの特徴

本プログラムは、放射線診断医・放射線治療医となるために必要な研修を、基幹病院である宮崎大学医学部附属病院と連携施設で行います。

- 基幹病院である宮崎大学医学部附属病院で、放射線診断(画像診断・核医学・IVR)・放射線治療のトレーニングを幅広く受けます。
- 連携施設では、救急疾患や日常よく遭遇する疾患の画像診断を多く経験し、総合的な診療能力を培います。
- 症例報告を含む学会発表の経験を積み、海外での学会発表や論文作成を目指します。
- 希望者は、先進画像を用いた研究や人工知能(AI)研究など、画像診断・放射線治療に関する研究を経験できます。

連携施設名等

	施設名	指導医	専門分野・特徴
基幹施設	宮崎大学医学部附属病院	13名	画像診断・IVR・放射線治療
連携施設	県立宮崎病院、都市部医師会病院、藤元総合病院、宮崎市医師会病院、宮崎江南病院		
関連施設	都城健康サービスセンター		

取得可能な専門医資格および技能

- 放射線科専門医
- 放射線診断専門医
- 放射線治療専門医
- 核医学専門医
- PET核医学認定医
- IVR専門医
- マンモグラフィ読影認定医
- がん治療認定医

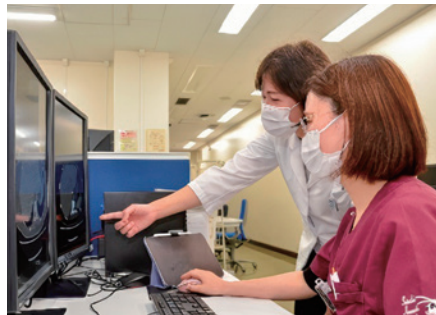
○ 研修コース 本人の希望で決定します

A：大学病院での研修を中心としたコース

B：大学病院で基礎的な研修をしたのち、連携施設中心に研修するコース

C：大学病院・連携施設での研修と博士号取得を同時に目指すコース

	1年目	2年目	3年目
A	大学病院	大学病院	連携施設
B	大学病院	連携施設	連携施設
C	大学病院 (臨床・大学院)	大学病院 (臨床・大学院)	連携施設 (臨床・大学院)



プログラム達成目標

- ① 画像診断・IVR・放射線治療に関する知識の修得
- ② 安全で質の高い医療を提供する専門技能の修得
- ③ 医療人としての倫理観とチーム医療の一員としての姿勢を持つ専門医の育成
- ④ リサーチマインドの育成

経験すべき検査・読影数		経験すべき治療数	
X線単純撮影	400例	IVR	30例
消化管X線検査	60例	放射線治療	30例
超音波検査	120例		
CT	600例		
MRI	300例		
核医学検査	50例		

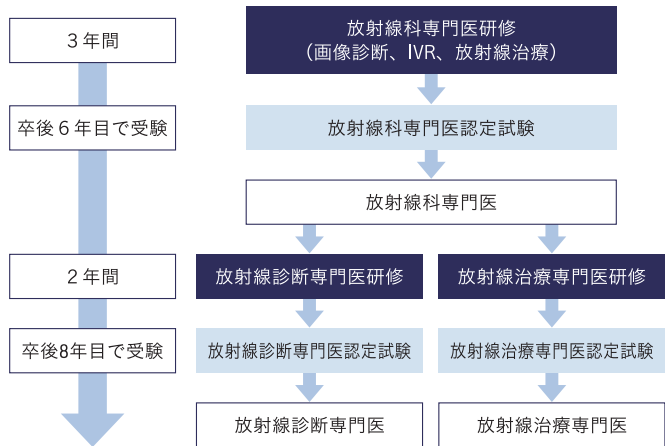
週間スケジュール

- ① CT・MRI ② IVR ③ 核医学 ④ 放射線治療
の4つのグループの研修を網羅的に行います。

(ある専攻医の1週間)

	月	火	水	木	金
	CT 病棟業務	CT 病棟業務	IVR 病棟業務	IVR 病棟業務	CT 病棟業務
	MRI 症例レビュー	MRI 症例レビュー	MRI 症例レビュー	医局会・勉強会 病棟カンファレンス 救急カンファレンス	MRI 症例レビュー

専門医取得までのタイムスケジュール



- CT・MRIグループでは、読影のみならず、画像検査の適応判断や撮像法の検討、検査前確認(腎機能やアレルギーなど)、造影剤副作用対応など担当します。
- IVRグループでは、検査や治療に参加し、緊急症例にも対応します。
- 核医学グループでは、放射性同位元素を用いた画像診断や内用療法を担当します。
- 放射線治療グループでは、治療計画や治療中の患者の診察・ケアを行います。
- 毎日午後各グループで共有すべき症例や教育的な症例をレビューします。
- 指導医と一緒に入院患者の診療を担当します。
- 木曜日の勉強会で論文紹介や症例提示を担当します。

指導医からのメッセージ



原 卓也

放射線画像は、ただの白黒の影ではありません。そこに「知識」という光をあてて初めて、正しい診断にたどりつくことができます。当医局では、診断・IVR・放射線治療・核医学のすべての分野で、若手の育成に力を入れています。日々の症例振り返りやマンツーマンの指導を通じて、「画像を読み解く力」と「画像を使って治療する力」を基礎からしっかり身につけられる環境です。また、子育て中の医師も自分らしく活躍できるよう、柔軟な働き方をサポートしています。ライフステージが変わっても、専門性を磨き続けられる体制がここにあります。確かな知識を武器に、進むべき道を示す「医療の羅針盤」となる画像のプロを共に目指しませんか。

先輩からのメッセージ



明利 陸征

私は、放射線科の中でも放射線治療を中心に診療をさせていただいています。放射線治療は、がん治療の3本柱の1つであり、徐々にその存在感が増してきています。根治にも緩和にも携わることができ、特に緩和では局所制御だけでなく疼痛改善や神経症状予防、止血などのQOL維持に直結する効果があります。各診療科の医師、放射線技師さん、看護師さん等とチームを組み、患者さんの生活や想いに寄り添いながら治療を行っています。スタッフも若手中心で、非常に明るく楽しい雰囲気の中、診療させてもらっています。がん治療に興味がある方や、様々な診療科の疾患が診たい方など、ほんの少しでも興味のある方、一緒に放射線治療をやりたいです。



中村 咲和

私は画像診断とIVRを中心に研修しています。大学で数年勤務した後、地域の市中病院での勤務を1年間経験して、今年度からまた大学に戻ってきました。同年代の仲間や頼れる上司が多数いる研修環境のありがたさを感じています。放射線科は、座ってじっくり画像に向き合うもよし、IVR等でガンガン手技をするのもよし、そのMixもOK！核医学や放射線治療も守備範囲で、多様な働き方を選択できます。言葉だけでは伝えきれないのでぜひ一度見学にいらしてください。



新地 康規

放射線科の魅力は、画像診断からIVR、放射線治療まで幅広く診断・治療に関わることができる点にあります。特にIVRでは、出血や外傷などの緊急症例に対応し、自らの判断と手技が直接患者さんの救命や改善につながる場面を経験でき、大きなやりがいを感じています(まだまだ研鑽中の身ではありますが...)。また、日々の読影業務を通じて多様な症例に触れ、臨床に必要な知識や判断力を着実に身につけることができます。研修を重ねる中で自分のできることが少しずつ増えていく実感があり、それが大きなやりがいにつながっています。明るく楽しく盛り上がり一緒に学んでいきましょう！



中野 靖子

放射線科は、多分あなたが思っている以上に、診断・治療・経過観察、多くの疾患に様々な角度から関わります。専攻分野としては、きっとあなたの興味範囲外ではないはず。業務は多岐に渡ります。毎日発見の連続です。専攻医2年目として、至らないながらも誠実に目の前の課題に取り組む事、出来る事を増やしていく事を心がけています。とりえず、落ち込んでいる暇はありません。診断医、治療医、救急医、技師、看護師、クラーク。放射線科は大事業です。相乗効果を存分に享受できます。チームの醍醐味です。感謝と敬意を忘れなければ。



宮城 遼

放射線科に興味をもったのは、学生の頃でした。画像を見て自分が考えたことが読影レポートの内容と一致していると、背中を押されているようで安心する、そんな感覚がありました。今度は自分が主治医の背中を押すレポートを書きたいという思いと、当科の柔らかな雰囲気惹かれて入局を決めました。私はIVR志望なのですが、読影も非常に奥深くに興味があります。過去に参加したセミナーで拝見した、全国のご高名な先生方が悩むことを楽しみながら読影する姿は衝撃的で、そこを目標に日々研鑽に励んでいます。あらゆる診療科と連携しながら適切な治療を目指すのが放射線科の魅力だと思いますので、ご興味ある先生はぜひ一度見学にいらしてください。

お問い合わせ先

担当：東 美菜子

T E L：0985-85-2807
F A X：0985-85-7172
e-mail：minako_azuma@med.miyazaki-u.ac.jp

放射線科HP

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/radiology/>

